



「LEDの用途開発を目指して」

電研エレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 肥後 和則

弊社は、鹿児島松下電子（現、パナソニックセミコンダクターオプトデバイス）の協力会社として昭和47年に操業を開始して今年37年目を迎えました。ゲルマトランジスタの加工、検査などからスタートしたものの、昭和49年のオイルショック時には一時休業を強いられました。しかし、昭和53年からLEDの量産が開始されるとともに事業規模を拡大してまいりました。その間に独自の商品開発にも取り組み、携帯電話の通信網を利用したLED情報板を桜島フェリーの客室内や南種子町の公園などに設置するなど独自の商品づくりにも積極的に取り組んでまいりました。

LEDは、省電力と長寿命という長所を生かして家電製品のモニター用ランプとして使われ始めましたが、高輝度化によってファクシミリやコピーなどの機能部品として、さらに青色LEDの発明により交通信号機や大型スクリーンの光源としても使用されています。特に携帯電話に多用されるために、携帯電話の急速な普及に伴って大量に生産され続けてきました。しかし、国内の携帯電話市場の縮小によって、その生産量は減少傾向となり、さらに、昨年からの世界同時不況が加わり

LEDの生産は激減しています。しかしながら、白色LEDの発明によって用途拡大の余地は数多く残されています。

農業の分野においては、食の安全や安定供給を目的にLEDを光源としたレタス工場などが既に稼働を始めています。また近年、環境破壊やエネルギー問題が大きくクローズアップされていますが、改正省エネ法の施行により一定の条件を満たす企業には電力などのエネルギー資源の自主的な削減が義務付けられることとなり、既存照明を省電力のLEDに置き換える動きが活発化しています。

弊社においては、工業技術センターのご協力を得て産学官共同研究開発補助事業のテーマとして照明用LEDの開発に取り組みました。農業の分野ではLEDの発光色（波長）による特性を利用した植物栽培用の試験機を開発して鹿児島県のトライアル制度に応募しています。現在も様々な分野から多種多様な要望が寄せられており、LEDの用途開発において地元に着目したテーマを探し出して、積極的にLED応用商品の開発に取り組んでいきたいと考えています。



桜島フェリーの客室

携帯電話の通信網を利用したLED情報板



南種子町の公園